

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890200033		
法人名	医療法人社団 いばらき会		
事業所名	ひたちの里 風神の湯	ユニット名	
所在地	〒319-1225 茨城県日立市石名坂町2-4-1		
自己評価作成日	平成26年7月15日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_021_kihon=true&JigyosyoCd=0890200033-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年9月17日	評価機関 決 済 日	平成27年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・眼下に太平洋や住み慣れた街並みが一望でき、自然豊かな山々に囲まれた中でゆったりとした時間を過ごしていただく事ができ、四季折々の風景を楽しめる環境が整っております。
・新潟県より古民家を移築し、利用者様が昔を懐かしく思い出されるような雰囲気を作り出しております。『親切・丁寧・その人がその人らしく』の理念に基づき、平等で思いやりのある介護に日々取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

幅広く在宅医療を展開する医療法人が、できる限り住み慣れた地域と自宅で過ごせるような、高齢者へのサービス提供が重要であるという考えに基づいて開設した事業所であり、医療と福祉の連携のもと、利用者は自宅と事業所を行き来しながら職員や家族等に見守られて安心した生活をしている。管理者や職員は小規模多機能型居宅介護サービスの目指す姿をしっかりと捉えており、「通い」や「宿泊」、「訪問」の各サービスのベストミックスを考えながら利用者を支援している。ハード面では新潟県にあった古民家を移築することにより、利用者がかつて暮らしてきたような住居空間を再現しており、利用者が精神的にゆったりと過ごせるように工夫をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『誠実・見守り』を基本として毎月一回全体会議にて唱和している。 ・全職員が理解し、その人らしい日常生活が送れる様に理念を共有し実地している。	「自然と陽の中で、ともに寄り添い今を生きる」や「地域住民との交流をはかる」など、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。 月1回の全体会議において理念を唱和し、全職員で共有している。 利用者の話しを傾聴しながら、利用者の生活リズムを大切に支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・夏祭りやクリスマス会などの行事には地域の人達に声掛け一緒に参加して頂けるようにしている。また、地域の保育園児や中学生が来所してくださる踊りや歌などを披露して下さる。お花見などには地域のボランティアさんの協力をいただき、食事と一緒に楽しまれる。	夏祭りやクリスマス会などの行事に、地域住民を招待しているほか、地域の保育園児や中学生が事業所に来訪し、踊りや歌を披露している。 花見などの外出行事の際に、地域のボランティアの協力を得るとともに、利用者と一緒に同じ弁当を食べて利用者とボランティアが交流できるよう配慮をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症の方を介護されている家族への相談アドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・施設の行事やサービスの利用状況の報告を行い、委員の方々のご意見を参考により良いサービスの向上に努めている。	家族等の代表や市職員、民生委員、地域の代表、地域のボランティアなどが参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、外部評価結果や事業所の状況を報告している。 家族等や欠席した委員に会議結果を口頭で伝えるとともに、利用者には無理のない範囲で会議への参加を呼びかけている。 「事業所入り口からの道路と公道との段差をなくすよう行政に働きかけてはどうか」との意見を受けて市に要望し、段差を解消している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・研修会や懇親会等への参加を通して関連部署との情報交換を行っている。また、月に一回の介護相談員の受け入れを行っている。	市主催の研修会や年数回の小規模多機能型居宅介護事業所懇談会の際に、「泊まりのサービス」に対する事業所の考え方などを市担当者に伝えている。 介護保険制度の疑問点や事業所周辺の猪対策などを市担当者に相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに努めている。また、身体拘束が起こらない様職員一人一人に注意をし徹底している。	身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、どんな場合でも身体拘束をしないという方針を打ち出し、きめ細かな見守りなどにより、玄関の施錠も含めて身体拘束をしないケアを実践している。 管理者は言葉による拘束が見受けられた場合には、現場教育を徹底するとともに、月1回の全体会議で話し合い、注意を促している。 年1回マニュアルを基に内部研修を実施するとともに、外部研修への参加の機会を探っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・機会が有れば研修会への参加を勧め勉強するよう指導している。 ・利用者様へはご自宅での様子や身体状況に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	・機会が有れば研修会への参加を勧め勉強するよう指導している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約書の内容を十分に説明し、ご理解ご同意頂けるよう心掛けています。 ・不明に感じている点が有れば繰り返し丁寧に説明させて頂いている。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情相談窓口を明示し意見要望が有った場合速やかに対応できるようにしている。また、送迎時や電話での安否確認の際ご家族の意見要望を伺っている。 	<p>訪問のほか、送迎の際の話し合いや連絡帳の記録を通して、利用者や家族等の意見や要望を聴くように努めているが、意見や要望、対応結果を記録に残すまでには至っていない。</p> <p>夏祭りで太鼓をたたきたいという利用者や家族等の要望を受け、他の事業所から太鼓を借用して応えている。</p>	<p>要望や意見の内容、対応結果を記録し、全職員で共有することを再度目標達成計画として掲げ、確実にステップアップしていくことが望まれる。</p>
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一回全職員が出席する会議を設け職員との意見交換の場を作り出した意見等を検討し運営に反映させている。 	<p>職員が投函できる意見箱を設置するとともに、月1回の全体会議で職員の意見を聴いている。</p> <p>勤務体制の変更に関する職員の要望を聴き、運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者は条件の整備に努力し勤務時間の変更等を行い、なるべく多くの職員の要望に近づける様努力を行っている。 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修等に参加を促している。 ・外部より講師を招き研修会を行った。 ・月一回の会議の際、勉強会を実地している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・市内の小規模多機能型事業所とお互いの運営推進会議へ参加し情報交換等の交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・状況に応じて訪問等を重ねご本人のご希望に添えるサービスの提供に努めている。 ・体験利用をお勧めしており、サービスの利用を開始する前より関係性を作れるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご自宅を訪問させていただき、ご家族の困りごと・不安な事を伺い出来るだけご要望に添える様対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご家族との話し合いの中で状況によっては他施設の利用を勧める場合も有る。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・昔話を伺ったり、人生の先輩としてアドバイスを受ける事も多い。 ・職員と一緒に洗濯物をたたんで頂いたりとお手伝いをお願いすることも有る。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族介護の大変さを理解し、ご本人とご家族の絆を大切に見守りながら、ケア出来る様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの美容師さんに来所して頂き理髪をお願いしている。 ・昔行った事のある、村松虚空蔵尊や西山荘などにも外出支援を行ったり、送迎の際時にはコースを変え生まれ育った街並みの変化などを懐かしく思ってもらえるよう支援している。	利用者の馴染みの美容師に、事業所への出張サービスを依頼している。 昔遠足で行ったことのある寺院や公園に外出しているほか、送迎時に生まれ育った場所を経由するなどの支援をしているが、利用者がこれまで培ってきた人間関係や場所との継続を支援するという観点に立って、馴染みの人や場所を把握するまでには至っていない。	利用者がその人らしく生きるためには、これまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握することが重要であることを再認識し、把握した結果を記録に残して全職員で共有することが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・孤立しない様に職員が常に見守りし、利用者様同士で楽しい時間を共有できるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・必要に応じて電話連絡や訪問等で連絡をし様子を伺いご家族の相談にのっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> 職員は一人一人に丁寧にかかわり暮らし方についてのご希望や思いに添える様意向の把握に努めている。 困難な場合は家族等から伺ったり利用者様の表情や仕草などで判断している。 	<p>日常的な関わりの中で、把握した利用者一人ひとりの趣味や嗜好などを「サービス経過記録」に記載しているが、その内容が日常記録に埋もれがちであり、全職員で共有するまでには至っていない。</p> <p>把握が困難な利用者の中には家族等から情報を得たり、利用者の表情や仕草から思いや意向を推測したりしている。</p>	利用者や家族等の思いや意向の把握が、ケアの出発点であることを再認識し、把握した思いや意向をサインペンで強調するなど、全職員で共有して介護計画に反映していく取り組みが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ご本人のプライバシーに配慮しつつ、職員がご本人やご家族よりこれまでの生活歴や経過の情報収集に努め、生活状況を把握している。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ご本人・ご家族より自宅での生活状況を伺い、サービスの利用時の様子を記録し現状把握に努めている。また、連絡帳を活用し情報を得ている。 		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員が日々の関わりの中から利用者一人一人の希望や状況を把握するとともにご家族等よりお話を伺ったり担当医の意見も取り入れ、全職員で話し合い現状に則した介護計画の作成に努めている。 	<p>介護支援専門員が作成した介護計画案を基に、全体会議において家族等や医療関係者の意見を踏まえた意見交換を行い、介護計画を作成している。</p> <p>毎月モニタリングを行うとともに、3ヶ月から6ヶ月毎の目標期間に応じて介護計画を見直している。</p> <p>入退院などで利用者の状態に変化が生じ、区分変更が必要になった場合などは、再アセスメントを実施して介護計画の見直しをしている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の変化を記録し、職員間で情報を共有しながらより良いケアに繋がるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人やご家族の状況に応じてその時々ニーズに対応しサービスの内容を見直し柔軟な支援が出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・安全確保も考え地域の民生委員さん・警察・ボランティアとの連携をとり協力をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	・運営母体が医療法人と言う事も有り、主治医との連携が図りやすい。 ・お泊りサービス利用時や急な体調不良を訴えられた際に、ご家族様と連絡を取りながら必要に応じて、連携医療機関よりの往診を受けられるよう調整を行っている。	希望するかかりつけ医への受診は家族等の付き添いを原則としているが、家族等の付き添いが困難な場合には、職員が付き添って受診をしている。 家族等が付き添う場合には、医師に伝えるべき情報を連絡帳やメモに記して家族等に渡すとともに、受診結果を家族等から聞いて「サービス経過記録」に記載し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者様の体調・病状の変化を報告し早期に適切な対応が出来る様努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・必要に応じた病院関係者との連携を取り情報収集に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・当事業所にて出来る事できない事を説明したうえで、ご本人・ご家族の意向に合わせた関係サービスの調整を行い対応している。	「看取り介護に関する指針」や「看取り介護マニュアル」を作成し、サービス利用開始時に家族等に同意を得ている。 過去に数例の看取り介護を実施しているが、事業所として「できることとできないこと」を明記した書類を作成するまでには至っていない。 年に1回看取り介護に関する研修を実施している。	事業所と家族等との意向がずれたまま重度化や終末期を迎えることのないよう、事業所として「できることとできないこと」を明記した指針を作成し、再度利用者や家族等から書面で同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時対応マニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災の避難訓練及び消火訓練を年2回程度実施している。消防署の立ち合いや近隣住民の参加も得て、前回の反省点をもとに行っている。 ・災害時には民生委員や近隣の他高齢者施設など地域住民等による消火や利用者誘導など協力体制を整えている。 ・備蓄品も3日分程度管理している。	避難訓練や消火訓練などを年2回実施しているが、夜間を想定した避難訓練を実施するまでには至っていない。 避難訓練に地域住民や近隣の他法人高齢者施設職員が参加するなど、地域との協力体制を構築している。 避難訓練記録を残しているが、避難限界時間を踏まえた課題を浮き彫りにするまでには至っていない。 備蓄品倉庫を設置して食糧や飲料水のほか、おむつやガスボンベ、コンロ、鍋、懐中電灯などを保管しているが、備蓄品一覧表を作成するまでには至っていない。	夜間想定での避難訓練を実施し、避難限界時間内の避難完了を目指した課題の明記と、課題解決に向けた確実な取り組みが望まれる。 消費期限を明記した備蓄品一覧表を作成することを再度目標達成計画に掲げ、確実にステップアップしていくことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 職員は利用者様一人一人の人格を尊重して丁寧に接し、その方にあった言葉づかいを心掛けている。 トイレ誘導時等他の方に気づかれぬよう声掛けを行っている。 個人情報に関する書類は事務所のカギのかかるロッカーにて保管している。 	職員は利用者の職歴や生活歴を参考にし、距離感を図りながら名前の呼び方を変えたり、ゆっくり話しかけたりするなどの配慮をしている。 排泄誘導の際には、他の利用者に気付かれないよう耳元で声かけをしている。 利用者の個人情報は、人目に付かない事務室の鍵付きのロッカーに保管をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ご本人の意思を尊重し、自己決定できるような声掛けに努めている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ご本人の希望を優先し一人一人のペースに合わせた生活を支援している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 2ヶ月に一度、希望者に理髪支援を行っている。また、起床時や入浴後に鏡の前で整髪している。 女性利用者様へは、口紅やマニキュア等職員やボランティアさんと楽しまれている。 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 朝食は職員が調理し、利用者さんと一緒に食卓を囲む。昼食・夕食は同一法人の厨房にて調理した食事を提供しているが、ご利用様の好き嫌いを把握し、調理担当者に伝えている。また、季節感のある旬の食材を利用したメニューを取り入れている。 利用者様にはテーブル拭きを手伝う役割を担って頂いている。 毎月一度利用者様と一緒に手作りおやつを作成するレクレーションを行っており、利用者様の希望を聞きながら作って食べる事を楽しんで頂けるように努めている。 	<p>職員が調理する朝食を除き、同一法人の通所介護事業所の厨房からの給食となっているが、給食の献立以外に、利用者の希望を聞きながら自家菜園での収穫物を食材に加えるなど、工夫をしている。</p> <p>弁当持参で花見に行ったり、季節や誕生日に合わせた食事のほかに、月1回のおやつ作りなど、食事が楽しみなものとなるよう支援をしている。</p> <p>利用者はそれぞれの能力に応じて職員と一緒にテーブル拭きや後片付けをしている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 食事や水分量を記録し、一人一人の状況に合わせた食事・水分量が確保できるよう支援している。 	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 毎食後、歯磨き支援を実施している。その際に口腔内を確認し残差物が無いように注意している。 	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 出来る限りオムツを使用しないように排泄チェック表に基づきプライバシーに配慮しながら声掛けしトイレ誘導を行うようにしている。 	<p>自宅でおむつをしている利用者に対しても、時間に合わせて定期的に排泄誘導をすることにより、おむつを使用しないケアを実践している。</p> <p>「立ったり座ったりする」や「そわそわして落ち着かなくなる」など、利用者一人ひとりの排泄サインを見逃さずに排泄誘導をしている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄記録をチェックし水分量・食事内容を把握しながらスムーズに排便が出来る様支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・通いサービスが中心の為、入浴時間は午前中となっているが、入浴を拒む利用者様の場合も無理強いせず、気分が変わった頃にもう一度声掛けを行うなどの支援をしている。心身状態が不安定な為どうしても拒否が有る場合でも、部分清拭や着替えのみなどで個々に応じた支援を行っている。	毎日午前中の中の入浴を基本としているが、それ以外の時間帯でも希望があればシャワー浴や清拭などの支援をしている。 岩風呂を設置するとともに、季節毎に菖蒲湯や柚子湯にするなど、ハードとソフトの両面から入浴が楽しみなものとなるように支援をしている。 一般浴が困難な利用者向けに、機械浴槽を用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ご本人の希望に合わせて和室にてくつろいでいただいたり、昼寝をして頂いたりしている。 ・宿泊時も自宅で過ごす様に過ごしていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・看護師が管理を行っている。また、体調の変化に合わせて、ご家族や主治医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ご本人の力量に合わせたお手伝いをして頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・利用者の希望が有れば周辺の散策が出来る様に支援している。 ・お花見や外食会などボランティアさんのお手伝いを頂きながら、ご家庭では普段行かれないような所への外出も支援できるようにしている。	月に数回、事業所周辺の散歩を支援している。 地域ボランティアの協力を得ながら、桜や紫陽花、菖蒲見物のほか、初詣や公園などへ年数回外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お花見等の外出の際、少額の現金を持参して頂き、職員付き添いのもとに自由にお買い物を楽しめるよう支援を行った。今後も継続していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人のご希望時、電話をかけたり取り次いだりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・昔懐かしい雰囲気の中で、季節が実感できるよう配慮し、居心地の良い生活が出来る様に電球の光や色にも配慮し支援している。	新潟県にあった古民家を改築した建物で、共有空間の玄関にはベンチや手摺、庭を眺められる広縁には椅子、庭にはグリーンカーテンなどを配置し、利用者がゆったりとした雰囲気の中で居心地よく過ごせるよう工夫をしている。 天井に梁をめぐらした空間に絵画や季節の草花をさりげなく飾ることで暖色系照明と相まって、利用者がかつて暮らしてきたような生活空間を作り出し、ゆったりと過ごすことができるよう随所に工夫を凝らしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・無理強いすることなく、マイペースで生活できるよう、一人一人の希望や思いを尊重しケアにあたっている。 ・ダイルームや和室のテーブルを囲んだり、廊下の椅子で寛いだりと思い思いに過ごしていただけるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・泊りサービスの利用時は、畳敷きの部屋で布団を敷いたり、洋間にベッドを置いたり、ご自宅と同じような設えとなっている。また、自宅で使い慣れている寝具等をご持参頂けるようにしている。	利用者は泊まりの部屋に自宅で使っていた馴染みのラジオや寝具などの身の回り品を持ち込んでおり、職員はそれぞれの生活スタイルに合った居室づくりができるように支援をしている。 壁の間接照明や足元灯を設置するなど、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりや呼び鈴を配置し安全に自立した生活が送れる様支援している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 ひたちの里 風神の湯

作成日 平成27年1月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族や利用者さまの要望や意見の内容、対応結果を全職員で共有しステップアップにつなげていくに至っていない。	家族や利用者様の要望や意見を聞くだけでなく記録に残す。	全体会議などで記録を全職員に周知しそれらについて話し合うように日々の介護につなげていく。	6か月
2	20	利用者様がこれまでに培ってきた人間関係の場との継続を支援するという観点に立ってなじみの人や場を把握するに至っていない。	人間関係や場を把握し記録に残す。	利用者様が大切にしてきた人間関係や場所との関係が途切れないよう把握した記録を全職員で共有し支援していく。	6か月
3	23	日々の関わりの中で把握した利用者様一人一人の趣味や嗜好などを記録に記載しているが全職員で共有するに至っていない。	全職員が把握し共有する。	利用者様一人ひとりの趣味や嗜好などが記載されているサービス経過記録を共有し、月一回の全体会議でも思いや意向を再認識し取り組んでいく。	3ヶ月
4	33	看取り介護に関する指針や看取り介護マニュアルを作成しているが、事業所として『出来る事・出来ない事』を明記するに至っていない。	施設と家族等との意向がずれたまま重度化や終末期を迎える事の無いように『出来る事・できない事』を明記する。	『出来る事・できない事』を全職員で再確認し、指針やマニュアルに明記し、利用者様や家族等から同意を得られるようにする。	6か月
5	35	火災や地震、水害等に備えての備蓄品一覧表を作成するに至っていない。	保管している備蓄品の一覧表を作成し、賞味期限等が一目でわかるようにする。	備蓄品を再点検し、一覧表を作成する。	1カ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。